千葉市研究レポート５

亥鼻山・お茶の水

こんにちは。ツッコマー・ゆっきーです。千葉市内にある地図ラー的な萌えポイントを、熱くツッコミを入れながら楽しく解説していくシリーズです。

３月のある日、私はコケてしまった。見た目にはほぼ平坦に見える下り坂で、足がもつれて２回転…。今までこんな姿勢でコケたことはなかったのに、やっぱり忙しさのせいなのかなぁ…。ﾌﾞﾂﾌﾞﾂ…。

それから１週間後、今度はマジやばかった。バスに乗ろうと思ってステップに上がろうとしたら、上げたつもりの足の高さがステップの高さに及ばず、あえなく前のめりに転倒…。さすがにバスのステップは硬く、肋骨を１本骨折、ついでにもう１本にもヒビが入ってしもうた。

そんな満身創痍の私だけど、このレギュラー番組だけは外せない（プロ根性！）。でもちょっとだけゴリ押しして（けして無理強いではない！）思いっきり近場を歩くことにした。

都川に架かる大和橋は、千葉県庁や裁判所の近くにある見た目は普通の橋。でも実はこの橋はタダモノではなく、千葉市の歴史をずっと見てきた証人。まぁそれは千葉市研究レポート４で詳しくしつこく書いたのでそちらをご覧いただきたく。何しろ今日はわき腹が痛む…。

千葉駅方面からこの大和橋を渡る手前で左手を見上げると、山の上に立派なお城が見えてくる。これが我らがランドマーク千葉城だ。でもこの建物は昔のお城を復元したというものではなく、小田原城の姿を模して昭和 42 年に建立された千葉市立郷土博物館だ。お城の天守閣のように見えるけど、城郭型の建築物で、実はいち早く耐震工事も施されたハイテク施設なのだ。

下の写真は昭和初期の亥鼻山と現在の亥鼻山。古い方の写真は撮影場所がわからないので同じ場所かどうかわからないけれど、低地からいきなり崖が切り立っているからおそらく近い場所から撮れていると思う。高い建物がなかった時代だから、亥鼻山の上からは千葉市内が一望できていたことだろう。

（目で見る千葉市の 100 年）

大和橋を渡って細い道を左手に曲がると、亥鼻山のふもとに出る。ふもとには「お茶の水」という碑があって、ここは千葉常胤が源頼朝にお茶を献じたという名水だ。千葉一族が代々ここで産湯を使ったという伝説もある湧水は今は枯れているけど、ここを見て太古の時代に思いを馳せるのもいいだろう。

お茶の水の裏手には急峻な階段がある。スリバチマニアにとっては垂涎の的だけど、今日の私はここをシャキシャキとは登れない。

しかし力を振り絞って階段を上がり、ようやく標高 20 メートルの頂上が見えてくると、右側に踊り場のような場所が見えてくる。鳥居をくぐるとまぁ普通の神社っぽい姿なんだけど、左手前のブラインドコーナーに地味な碑がある。書いてある文字は「亥鼻城址」だ（！）。

平安時代に作られたお城がこんなに高台にあるわけないだろ、とツッコミを入れてみるものの、そう書いてあるものは仕方ない。きっと住まいとしてのお城ではなく、見張り台という役割のものがあったのだろう。ここはグッとガマンだ。

そしてあと少し階段を上がると、いよいよ亥鼻山の頂上（？）に立つ。登頂成功だ！長い道のりだったなぁ（笑）。

亥鼻山というのは下総台地の先端にあたる舌状台地で、周辺の低地からこんもり盛り上がっている印象だ。この場所一帯から青葉の森や内陸方面はずっと台地が続いている。

亥鼻山の玄関は千葉城こと千葉市郷土博物館で、この前の広場は桜の季節には花見客が押し寄せてきて、パッと見ると一部分だけは上野の山にいるような気になる（嘘）。いのはな亭という団子屋さんもあって、ここのみたらし団子は絶品！登頂の疲れを癒すには絶好のスイーツだ。

いのはな亭の先には低地に向かう急な階段が待ち受ける。ここはかなり切り立った崖になっているけど、この崖は実は人工もの。崖を削った土を使って、市場町などの湿地帯を埋め立てたのだそうだ。

そして郷土博物館を横目に先へ進むと、千葉県文化会館の大きな建物。ここは子供たちの学校行事、音楽発表会や、昭和のアイドル、演歌の大御所などのライブもおこなわれる。

そこから坂を下りずに逆方向に進むと、千葉大学亥鼻キャンパスが現れる。ここは医学部、薬学部、看護学部と千葉大学病院があり、研究機関としても教育機関としても千葉県の最高峰の頭脳が集まっている。このキャンパス内にはさらに楽しいところが満載なんだけど、この項が終わらなくなってしまうので、またの機会にじっくり舐めるように紹介させていただくことにしよう。

ツッコミ担当：田中幸穂

文章・写真担当：小川順一